



Asianux Server 4 ==

MIRACLE LINUX V6 for IBM POWER

リリースノート

Asianux Server 4 == MIRACLE LINUX V6 for IBM POWER リリースノート

(C) 2012-2013 MIRACLE LINUX CORPORATION. All rights reserved.

Copyright/Trademarks

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における、登録商標または商標です。

Asianux は、ミラクル・リナックス株式会社の日本における登録商標です。

ミラクル・リナックス、MIRACLE LINUX は、ミラクル・リナックス株式会社の登録商標です。

RedHat、RPM の名称は、Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

IBM、Power、POWER7 は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

Oracle、Java は、Oracle およびその関連会社の登録商標です。

その他記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する各社の登録商標または商標です。

目次

第1章 製品の概要.....	5
1.1 本製品の特徴.....	5
1.1.1 スケーラビリティの重視.....	5
1.1.2 仮想化環境に有利なライセンス体系.....	5
1.1.3 RAS 機能の充実.....	5
1.1.4 他のLinux との互換性・差別化.....	5
1.1.5 充実の有償追加サービス.....	6
1.2 システムの要件.....	6
1.3 製品の構成.....	7
第2章 留意事項.....	9
2.1 既知の問題・制限.....	9
2.1.1 ディスプレイの解像度が最大に設定されない場合.....	9
2.2 その他の留意事項.....	10
2.2.1 SELinux 有効時のゲストアカウントの有効化.....	10
2.2.2 root 宛の電子メール.....	10
2.2.3 MTA(メール転送エージェント)の変更.....	10
2.2.4 テクノロジー・プレビュー.....	11
2.3 サポート SLA 特記事項.....	12
2.4 フィードバック.....	12
2.5 最新のドキュメント・正誤情報.....	12

修正履歴

2012 年 1 月 17 日	初版作成
2012 年 12 月 13 日	SP2 向けに改変、Asianux Server 4 == MIRACLE LINUX V6 SP2 リリース ノートに改題
2013 年 11 月 28 日	IBM POWER 向けに改変、Asianux Server 4 == MIRACLE LINUX V6 for IBM POWER リリースノートに改題

第1章 製品の概要

1.1 本製品の特徴

Asianux Server 4 == MIRACLE LINUX V6 for IBM POWER は、エンタープライズシステムソリューションの核となるべく、基幹業務に求められる信頼性、安全性、可用性、セキュリティ機能を備えた、Power アーキテクチャーのサーバー用途向け Linux OS、MIRACLE LINUX の6 世代目の製品です。グローバルにおいては、Asianux Server の名称で4 世代目の製品となります。

Asianux Server 4 == MIRACLE LINUX V6 for IBM POWER には主に以下のような特徴があります。

1.1.1 スケーラビリティの重視

- Ext4 ファイルシステムに対応し、最大ファイルサイズ 16TB、最大ファイルシステムサイズ 16TB (理論値では 1EB) に対応。パフォーマンス・信頼性に優れています。
- Kernel の新しい I/O スケジューラ、CFQ (Completely Fair Queuing) により安定した I/O スループットを実現します。

1.1.2 仮想化環境に有利なライセンス体系

- 1 ライセンス 1 サーバーのシンプルなライセンス体系のため CPU ソケット数や仮想化環境 (LPAR) でのゲスト OS イメージとしての利用数に制限はありません。

1.1.3 RAS 機能の充実

- Hotplug、メモリエラーレポートなどの機能を充実させています。
- トラブルシュート時にシステムに負荷をかけずに的確な情報収集を行う mcinfo を提供します。

1.1.4 他の Linux との互換性・差別化

- 企業向け Linux の業界標準規格である、LSB (Linux Standard Base) 4.0 に準拠します。
- 高信頼性が要求される通信事業に対応する、CGL (Carrier Grade Linux) 4.0 機能を搭載します。
- ほとんどのランタイム環境、およびカーネルシンボルは、Red Hat Enterprise Linux 6.3 相当と互換性があります。

- Red Hat Enterprise Linux 6.3 用のバイナリドライバやアプリケーションをそのまま利用することができます。
- SELinux は特別なセキュリティを必要とするシステムでの利用に限定されるため、インストール直後は無効化しています。

1.1.5 充実の有償追加サービス

- 日本在住エンジニアが、日本語によるサポートサービスを提供しています。
- 発売より最低 10 年間、製品のサポート及びメンテナンスが継続されます。
- MIRACLE PLUS+ 製品群が、標準の製品にない機能の追加や強化に利用できます。
- システムのカスタマイズやチューニングについて、コンサルティングサービスを展開しています。

1.2 システムの要件

次の条件を満たす POWER プロセッサをサポートします。

CPU	- PPC64 POWER7 プロセッサ以降
メモリ	2GB 以上
ハードディスク	空き容量 16GB 以上を推奨
ビデオカード	SVGA (800×600)以上の解像度に対応したものが必須。XGA (1024×768) 以上を推奨。対応機器は、次のウェブサイトを確認してください。 http://www.x.org/releases/X11R7.5/doc/man/man4/

各機種個別の稼動報告については、最新の情報を順次弊社ウェブサイトに掲載しますので確認してください。

<http://www.miraclelinux.com/product-service/server-linux/linux/power/spec>

なお、上記の条件を満たすすべての機器の動作を保証するものではありません。

1.3 製品の構成

本製品を構成する主要ソフトウェアとそれぞれのバージョンは次のとおりです。

ソフトウェア名称	バージョン
Kernel	2.6.32
GLIBC	2.12
GCC	4.4.6
X.Org	1.10.6 (R7.6+)
Firefox	10.0.12
RPM	4.8.0
KDE	4.3.4
GNOME	2.28.0
OpenSSH	5.3p1
BIND	9.8.2
ISC DHCP	4.1.1
OpenLDAP	2.4.23
Postfix	2.6.6
sendmail	8.14.4
Dovecot	2.0.9
vsftpd	2.2.2
Squid	3.1.10
Apache HTTP Server	2.2.15

ソフトウェア名称	バージョン
MySQL	5.1.67
PostgreSQL	8.4.13
Samba	3.5.10
NTP	4.2.4p8
Net-SNMP	5.5
iSCSI	6.2.0.872
iptables	1.4.7
Perl	5.10.1
Python	2.6.6
Ruby	1.8.7.352
PHP	5.3.3
CUPS	1.4.2
Ghostscript	8.70
foomatic-db	4.0-7.20091126
Subversion	1.6.11
sos	2.2
mcinfo	3.0-9

第2章 留意事項

2.1 既知の問題・制限

2.1.1 ディスプレイの解像度が最大に設定されない場合

解像度が設定可能な最大解像度に自動的に設定されないシステムの場合、次のように設定を追加してください。Xを終了させます。ランレベルが5の場合、ランレベルを3に変更するなどして停止させます。

```
# telinit 3
```

xorg.conf ファイルが/etc/x11/にない場合は作成します。

```
# X -configure
# mv xorg.conf.new /etc/X11/xorg.conf
```

xorg.conf をエディタで開き、Display サブセクションに解像度を設定し、保存します。

```
Section "ServerLayout"
    Identifier      "X.org Configured"
    Screen 0       "Screen0" 0 0
    Screen 1       "Screen1" RightOf "Screen0"
    Screen 2       "Screen1" RightOf "Screen1"
    . . .
    . . .

Section "Screen"
    Identifier "Screen0"
    Device     "Card0"
    Monitor    "Monitor0"
    . . .

    SubSection "Display"
        Viewport 0 0
        Depth    24
        Modes     "1280x1024" <=この行を追加
    EndSubSection
```

X を再起動します。ランレベルを変更した場合、以前のランレベルに変更します。

```
# telinit 5
```

2.2 その他の留意事項

2.2.1 SELinux 有効時のゲストアカウントの有効化

すべてのパッケージをインストールする等、xguest パッケージがインストールされた状態で、さらに SELinux を有効にした場合、"xguest"アカウントが同時に有効になり、ゲスト利用が可能になります。

2.2.2 root 宛の電子メール

root ユーザー向けの電子メールを受け取るには、/etc/aliases で root のエイリアスを適切に設定する必要があります。

2.2.3 MTA(メール転送エージェント)の変更

MTA は初期設定では sendmail になっています。これを postfix に変更するには、次の手続きを行なってください。
sendmail サービスを停止します。

```
# service sendmail stop
```

alternative コマンドを使用し、MTA を選択します。

```
# alternatives --config mta
```

postfix サービスを開始します。

```
# service postfix start
```

2.2.4 テクノロジー・プレビュー

下記機能は、本バージョンでは実験的な実装となります。技術検証目的でのみご使用ください。

- LVM のシンプロビジョニングのスナップショットとシンプロビジョニングの論理ボリューム
- lvm2: LVM のメタデータ情報を動的に収集するデーモン
- Parallel NFS: NFS で パラレルに直接ストレージにアクセスできる機能
- fsfreeze: ファイルシステムへのアクセスを停止させる
- DIF/DIX: SCSI における checksum 機能
- FUSE (Filesystem in Userspace): ユーザースペースファイルシステム機構
- btrfs: より新しい先進的なファイルシステム
- LVM API: LVM への問い合わせや制御を行うための API
- FS-Cache: クライアントマシンにおけるネットワークファイルシステムのデータキャッシュ機構
- tc コマンドを用いたユーザスペースからの QFQ (Quick Fair Scheduler) キューイングの制御
- IPVS 上の IPv6 サポート
- Omping (Open Multicast Ping): IP マルチキャスト機能のテストツール
- Matahari: リモートアクセス管理ツール
- SIGAR (System Information Gatherer and Reporter): マルチプラットフォーム対応の、システム情報の収集とレポートを行うためのライブラリとコマンドラインツール
- SELinux ユーザマッピング
- SSSD の automount マップキャッシング
- TPM (Trusted Platform Module): Trusted Computing 用チップを使用するためのライブラリやツール群
- SSH キーの集中管理
- be2net ドライバの SR-IOV 機能
- Broadcom bnx2i と bnx2fc ドライバによる iSCSI と Fcoe ブート
- mpt2sas のロックレスモード
- シンプロヴィジョニングとスケーラブルスナップショット
- 最新のvideo4linux ドライバ、デジタルビデオブロードキャスト、初期の赤外線遠隔操作デバイスのサポート、Webcam サポートの修正や改善等を含む、一連のメディアサポート
- 監査ログの遠隔への転送機能
- LXC (Linux Namespace Container): プロセスごとのハードウェア資源分割機構
- EDAC ドライバーインターフェース
- fence_ipmilan エージェントを使用した kernel dump を起こすための診断波
- vCPU hot plug: 仮想 CPU のホットプラグ機能
- SNMP 経由のシステム監視
- macvtap/ vhost ゼロコピー機能
- numad: NUMA システムのためのデーモン

2.3 サポート SLA 特記事項

本バージョンでは、サポート SLA (サービスレベルアグリーメント) に対して特記すべき事項はありません。サポート範囲については、サポート SLA を確認してください。

<http://www.miraclelinux.com/jp/online-service/sla/>

2.4 フィードバック

私たちは常に本製品の改良に努めております。本製品を使用するうえにおいて、お気づきの点や要望等ございましたら、次のメールアドレスにメールをいただけると幸いです。

feedback@miraclelinux.com

2.5 最新のドキュメント・正誤情報

本バージョンのマニュアルに新しい情報を追加した場合や不備が見つかった場合、製品付属のドキュメントに不備が見つかった場合などは、次の URL にて最新のマニュアルのダウンロードもしくは正誤情報を公開しておりますので、あわせてご覧ください。

<http://www.miraclelinux.com/jp/online-service/download/manual/>

Asianux Server 4 == MIRACLE LINUX V6 for IBM POWER リリースノート

2013 年 11 月 28 日 初版発行

発行 ミラクル・リナックス株式会社

Copyright (C) 2013 MIRACLE LINUX CORPORATION.